

各会場での研究発表は、先生方が日頃の子どもたちとの関わりのなかで、どう伝えてどう指導すれば分かる楽しさを教えることができるのかを意識し、教科ごとに創意工夫しながら取り組んでこられた1年間の研究成果を見せて頂くことができました。

5つの会場を回り、それぞれ一部しか拝見できませんでしたが、どの取り組みも子どもたちの個性を尊重し、自己肯定感をもたせながら自発性を促していけるような工夫がされており、時代の変化に対応したコミュニケーション能力の向上を目指した指導も考慮されているところが印象的でした。

自主的に参加され、よりよい教育を目指して意欲的に自ら学び、成長しようという先生方の熱意が伝わり、保護者として頭の下がる思いでした。

こうした先生方の姿勢が、学校での子どもたちの健やかな成長に繋がることと思い、貴重な研究結果を今後のよりよい教育に活かしていただきたいと願います。

教職員組合の方より、組合は労働環境、労働条件の改善だけでなく、授業をよりよいものにする活動も行っていることも、保護者の方々にご理解いただけたらとのことでした。